

平成28年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果について

1 調査について

(1) 調査の概要

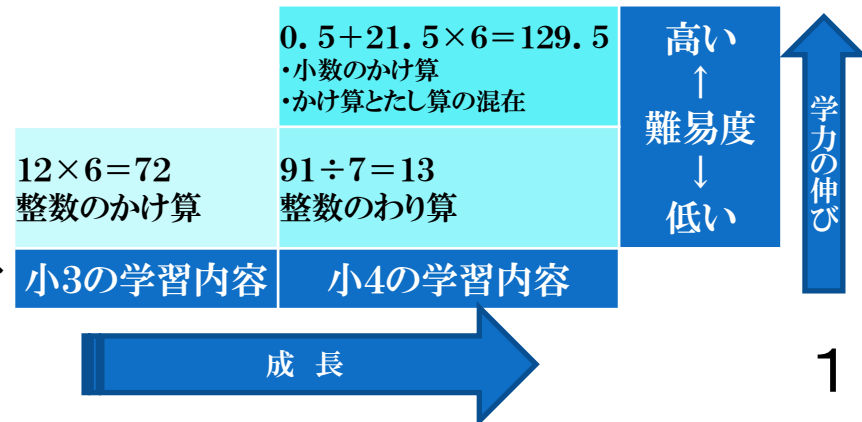
実施日	平成28年4月14日(火)
調査対象	県内の公立小・中学校(さいたま市を除く)に在籍する小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒 ・ 小学校 708校 149,227人 ・ 中学校 356校 146,323人
調査概要	(1) 児童生徒に対する調査 ア 教科に関する調査 小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数 中学校第1学年 国語、数学 中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語 ・ 出題数は、各学年26～40題(問題形式は選択肢・短答・記述) イ 質問紙調査 学習意欲、生活習慣及び規範意識等に関する事項 ・ 質問数は、各学年83～102項目 (2) 学校及び市町村教育委員会に対する調査 学校における教科指導の方法や市町村における独自の研修の実施状況等に関する事項
特徴	「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という視点に「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか(学力の経年変化)」という視点を加えている。⇒学力の伸びが把握できる。

(2) 「学力の伸び」について

本調査における学力の変化についての定義

「成長」・・・児童生徒が、学年が上がることで、新たな知識などを身に付けること

「学力の伸び」・・・児童生徒が、「成長」の中でもとりわけ、以前と比較してより難易度の高い問題に正答できる力を身に付けること

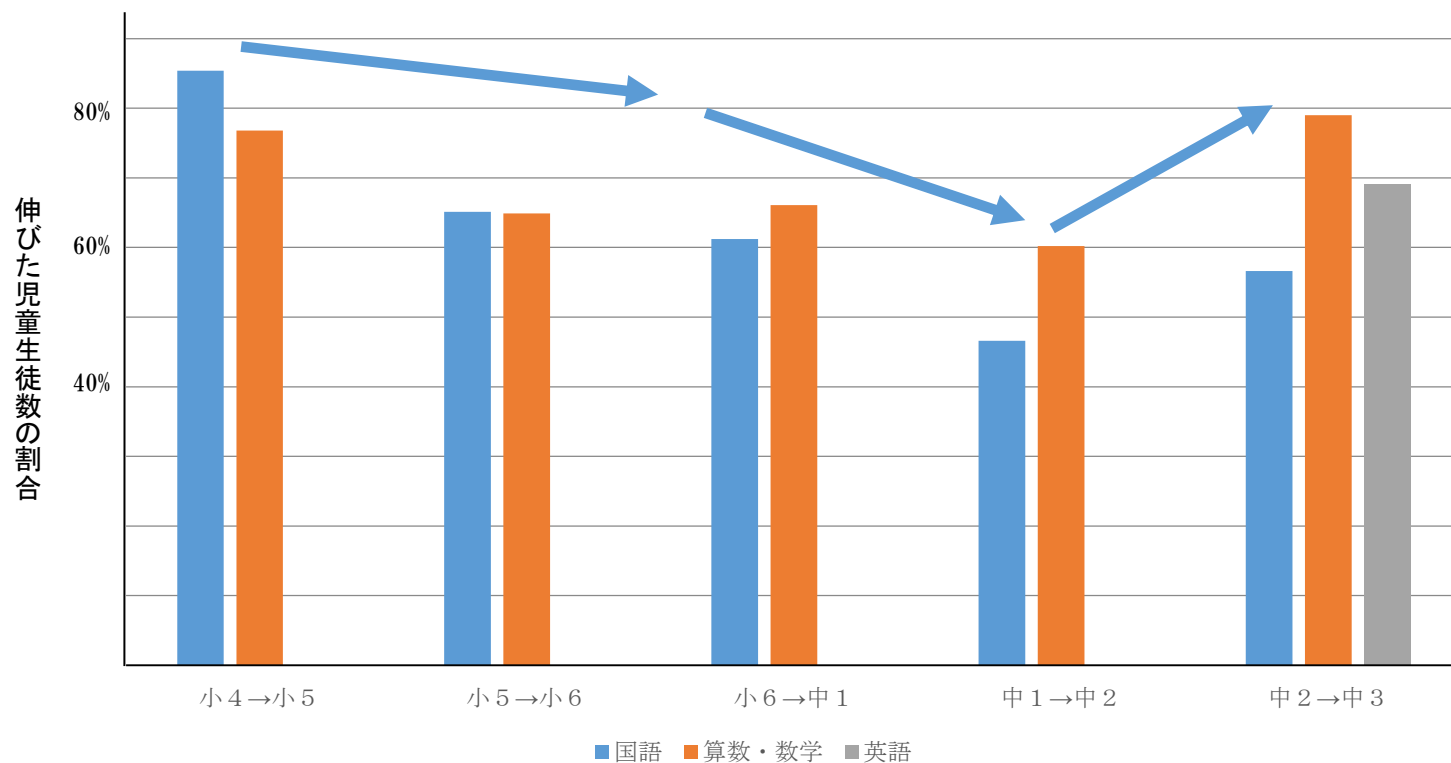


平成28年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果について

2 「学力の伸び」の状況

中学校第1学年の1年間で、学力が伸びた生徒が特に減少する。

○県全体の状況(教科ごとの「学力の伸び」が見られた児童生徒数の割合)



3 調査結果の分析と今後について

(1) 中学校第1学年で学力が伸びた生徒が特に減少する傾向について

【分析】

- ・ 中学校の学習になり、問題がより複雑で、抽象的になるため、困難に感じる生徒が増えると推測

【具体的な課題】

- ・ 次のような問題が「学力の伸び」に差を生じたと考えられる。

国語・・・構成が複雑な文章の文脈をつかむ問題

(例) 複数の例示が示されたり、段落の中で事実と意見を述べた部分が複雑に混じり合った文章中から正解を探す問題

算数・数学・・・実生活からかけ離れた抽象度の高い問題

(例) 比例のグラフからyの変域を求める問題

【対応】

→ 小学校と中学校での学習内容の変化を意識した指導を推進

(2) 専門的なデータ分析の実施

- ・ 調査で得られた結果について、指導と学力の関係等の視点で「学校法人慶應義塾 慶應義塾大学SFC研究所」に分析を依頼

(3) 各市町村教育委員会や学校での分析と指導改善への支援

- ・ 学年や教科による「学力の伸び」の状況と学校での取組などの分析

